

## 和・欧文にみる「名詞止め」表現と 休止・句読法との関わり合い

筑 木 力

### 1 はじめに

(1) 「名詞〔体言〕止め」表現は和文古来の修辞技法であるが、近ごろこの使用がふえているように思える。スピード感や情感を志向する気持ちの現れなのか。この表現技法を通時的にとりあげ、英語やフランス語の文章にみられる類似表現（一種の省略文、elliptical sentence）と比較し、文体としての「名詞止め」表現と、話し言葉における「休止〔間〕、pause」と書き言葉における「句読法、punctuation」とが関わり合う姿を探ってみる。

(2) 『枕草子』〔*The Pillow Book of Sei Shōnagon*〕から

- ① a. 春はあけぼの。 b. 夏はよる。  
c. 秋は夕暮。 d. 冬はつとめて。

この個所の英語訳〔Penguin Classics (Translated and Edited by Ivan Morris)〕

- a. In spring it is dawn that is most beautiful.  
b. In summer the nights.  
c. In autumn the evenings, ...  
d. In winter the early mornings.

② すさまじきもの ほゆる犬。春の網代。三四月の紅梅の衣。ちご亡くなりたる産家。……

Ivan Morris 訳

Depressing Things

A dog howling in the daytime.

A wickerwork fish-net in spring.

A red plum-blossom dress in the Third or Fourth Months,

A lying-in room when the baby has died....

(3) “Pippa Passes” (by Robert Browning) から

The year's at the spring,

And day's at the morn;

Morning's at seven;

上田敏訳『海潮音』

時は春

日は朝

朝は七時

上田の翻訳には『枕草子』の表現形式が念頭にあった。彼は『枕草子』を愛読していた。

(4) 係助詞「は」の機能

① 「名詞＋は＋名詞」は日本語の基本的発想法であるが、現代の日本語では「は」の濫用が目立つ。

朝はメン抜き、昼は居眠り、

夜はカラオケ、休みはマージャン。

「主語＋動詞＋述語」はヨーロッパ語の基本構造であるが、日本語の「は」と「が」に相当する区別はない。

② 日本語の場合、文の構造が包み、包まれる関係によって成り立つには、イメージとイメージが連想によって展開していく pause が必要になる。

③ ヨーロッパ語は、日本語の pause にあたる個所に、語と語や文と文との関係を示す言葉〔前置詞、接続詞、関係詞など〕をおき、主文－従属文の順で組み立てていく構築的な言語〔structural language〕である。

## 2 仏文と英文にみる類似表現〔省略文〕

(1) Il y a quatre amours différents:

1° L'amour-passion, celui de la religieuse portugáise, celui d'Héloïse pour Abérlard, celui du capitaine de Vésel, du géndarme de Cento. . . .

*De L'amour* (par Stendahl)

(2) — Je n'ai ni père, ni mère, ni soeur, ni frère.

— Tes amis?

— Vous vous servez là d'une parole dont le sens m'est reste jusqu'a ce jour inconnu.

— Ta patrie?

— J'ignore sous quelle latitude elle est située.

— La beauté?

— Je l'aimerais volontiers, déese et immortelle.

— L'or?

*Le Spleen de Paris* (par Charles Baudelaire)

(3) Mon père paraissait atterré. Il murmura:

《Quelle catastrophe!》

*Contes Choisis* (par Guy de Maupassant)

(4) And after all the weather was ideal. They could not have had a more perfect day for a garden-party if they had ordered it.

Windless, warm, the sky without a cloud. . . .

*The Garden-party* (by Katherine Mansfield)

(5) One learns first of all in beach living the art of shedding; how little one can get along with, not how much. Physical shedding to begin with which then mysteriously spreads into other fields.

*Gift from The Sea* (by Anne Morrow Lindbergh)

- (6) It involves health; doctors, dentists, appointments, medicines, cod-liver oil, vitamins, trips to the drugstore.

“Do.”

### 3 こうした省略文についての諸家の見解

- (1) Etsko Kruisinga (*H.P.E.*, p.263)

Sentences Not Distinguishing Subject and Predicate.

- (2) Hendrik Poutsma (*G.L.M.E.*, chap. XXII)

Elliptical Sentence

- ① Simple Statements of Fact

More haste, less speed.

So much for supper.

- ② Utterances of Various Emotions

Capital!

For shame!

What a pity!

What bliss!

Down with the tyrants!

- ③ Questions

What about Mrs. Grundy?

- ④ Rhetorical Questions and Exclamations

He was a tailor, but what of that?

To arms!

- ⑤ Imperative Sentences

Your name and address, please.

Quiet, all of you!

(3) Otto Jespersen (*The Philosophy of Grammar*, p.107)

- ① Grammarians should always be wary in admitting ellipses except where they are absolutely necessary, and where there can be no doubt as to what is understood —

He is rich, but his brother is not (rich).

It generally costs six shillings, but I paid only five (shillings).

- ② Subject, Predicate の分析を許さない Sentence で主として Emotion を示すもの (*E.E.G.*, 10.9)

Good-bye !

Thanks !

What !

Dear me !

Heavens !

Silence !

Your health !

これらの amorphous sentence の意味は tone に依存することが多い。

## (4) 山田孝雄『日本文法学概論』 p.1120

省略の起こる動機には二つの機縁がある。①発話者による省略への意図が聴き手の主観に暗黙のうちに迎え入れられることと、②その省略の行われた痕跡が形の上にはっきりとしていなければならないことである。

## 4 日本語についての一般論的観察 (具体例は 7. (3) に詳述)

「名詞止め」表現の後に省略された動詞や終助詞のもつ機能が、書き言葉では「句読点」に吸収され、話し言葉では沈黙による「休止/間」に呑み込まれ、そこで文の流れがせき止められて impact が生じ、相手に余韻、余情を感じとらせる。

## 5 Pause〔休止〕と Punctuation〔句読法〕との関係など

## (1) Pause

発音における音声の一時的中止・途切れ、朗読技術の一種、音楽技術から出た用語

無音の休止 Silent Pause

満たされた休止 Filled Pause (ちゅうちょの形〔Hesitation Form〕)

機能

- ① 句・節・文等の切れ目におき、文法的境界を指定する。
- ② 息継ぎのための生理的機能であって、吸息〔inhalation〕のため一時的に発音を中断する。
- ③ 発話中、言葉に詰まったり、ちゅうちょした場合の途切れである。

上記の①と②は密接に関連する。話し手は発話の構成要素〔constituent structure〕に基づき、その許容範囲で息を継ぐ。③は①と必ずしも一致するとは限らない。constituent structureを顧慮せず休止がおかれることが多い。

## ④ 無音の発表行動である。

- a 位置、長短が重点
- b Grammatical Pause, Rhythmical Pause, Emphatical Pause, Emotional Pause,
- c 文法的または修辭的句読点は、朗読の pause と合うこともあり、合わないこともある。
- d 詩歌などの韻文は rhythmical pause〔律動的休止〕として合う。  
古池や<sup>△</sup>蛙飛び込む<sup>△</sup>水の音 (リズム単位がポーズ単位)
- e pauseの位置は、視覚的な句読法でも、生理的な呼吸法でもなく、表出内容に直結する心理的な休息点である。psychological pause〔心理的休止〕が普遍的な立場といえる。

f pause の長短は、およそ音楽の全休止（4拍）、二分休止（2拍）、四分休止（1拍）とみればよい。

### ⑤ Pausology 〔休止論〕

心理学、音声学、言語学などにわたる学際的な研究の対象として、近年漸く体系的な研究が開始された。psycholinguistics〔心理言語学〕の一分野である。

休止の音韻論として、母国語の話者がもつ linguistic competence〔言語能力〕を明らかにする。

The boy who broke the window / will be punished.

The boy / who broke the window / will be punished.

## (2) Punctuation

### ① 英語

文法的、論理的句読法の確立は18世紀で、それ以前はかなり自由であった。

#### ・Shakespeare

句読法はリズムへの配慮で施され、リズムの流れを一時止め、次に来る語に注意を向けるためコンマを使ったり、韻律効果のため普通は使わない個所にハイフンをつけたりする。

#### ・Milton

ピリオド、コロンの、セミコロンなどを会話や直喩を導入するため使い、現代の用法に比べて修辭的である。

### ② 日本語

句読法の発生（読解のため）

漢文訓読のさいに、訓点の一種として付されたのに始まると考えられる。

平安朝初期の点本に句点が付され、後に万葉仮名、ひらがなの文の場合も意味と切れ目に打たれるようになった。

## 句読点の整備（表現のため）

表現のため打つようになったのはもっと後世で、江戸時代に句読類も整備された。

## 句読点とは

文章内部の各部分の論理的関係を明らかにし、文の正確な意味を伝えるための表記上の手段として用いられる様々な補助記号である。この使い方を句読法という。

## 普通の句読点

。まる（句点） 、てん（読点） ・なかてん（くろまる・ぼつ・中ぐる） 「 」かぎ 『 』ふたえかぎ （ ）かっこ 《 》ふたえかっこ [ ]かくがっこ ?疑問符 !感嘆符 —ダッシュ ……てんてん =つなぎ ーつなぎてん \*\*わきてん —わきせん [傍線]

書き言葉の場合は、一定した使い方が望ましいが、実際には一律にきめにくい。意味関係を辿り、リズム感をこわさない範囲で短く切っていく辺りが穏当とされる。また句読点を全然つけないと、次のイ、ロのように複数の読み方ができる。話し言葉における休止と句読点の関係については前述したとおりである。

イ カネクレタノム

カネクレタ ノム

ロ 明日は 降る天気ではない

明日は降る 天気ではない

ハ すべての国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。（憲法第26条原文）

すべての国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じてひとしく、教育を受ける権利を有する。

このハにおいて、「ひとしく」という副詞は「受ける」にかかるのか、「有する」にかかるのか。普通は「受ける」にかかるとされているが。

また英語の場合、次の a、b、c では「,」の有無により意味が異なるが、話し言葉ではそれがわかりにくい。

a Boys, be ambitious. (原文)

Boys be ambitious.

b Girls come here.

Girls, come here.

c My wife, who lives in Tokyo, came to see me in Niigata yesterday.

My wife who lives in Tokyo came to see me in Niigata yesterday. (書き言葉では普通でない。)

## 6 日本語の韻文にみられる「名詞〔体言〕止め」表現

### (1) 和歌

① もともとは和歌の第五句〔結句〕を名詞〔体言〕で言い切る修辞法で、『新古今和歌集』的修辞法の代表的なものである。

「山高み春とも知らぬ松の戸にたえだえかかる雪の玉水」

② その効果としては、活用語や助詞が下に続かず、言い切りになるため、余韻、余情が残り、腰のすわった感じや、幽玄にして気高い風格をもたせ、素材を重点的により豊かに盛ることができる。

「名詞〔体言〕止めの百分率(橘純一)

『万葉』6、『古今』6、『千載』16、『新古今』32、『新統古今』40.

③ ただし『万葉集』は、結句中絶歌(結句が「目につくわが背」、「荒れしその路」のようなもの)の最後に、呼び掛けの体言、または詠嘆的添付の体言を付けたものが多い。しかし『新古今和歌集』は、前掲の歌や「風かよふねざめの袖の花の香にかをる枕の春の夜の夢」のように、最後の体言以外はすべてその体言への連体修飾をなす文節または連文節で、一首全体が一つの体言と見なされる連語となっているものが多い。

## ④ 『サラダ記念日』(俵万智)

434首のうち「名詞止め」で終わる歌は172首(39.6%)ある。

## ⑤ 『初版 赤光』(斎藤茂吉)

622首のうち31首(5%)しかない。

## (2) 俳句

「名詞止め」がかなり多い。芭蕉の三句『奥の細道』と、その英訳[Penguin Classics (translated by Nobuyuki Yuasa)]を示す。日本語には句読点がないが、英語は訳者の判断で適宜行をかえ、句読点をつけている。

① 行く春や鳥啼き魚の目は泪

The passing spring,

Birds mourn,

Fishes weep

With tearful eyes.

② 閑かさや岩にしみいる蝉の声

In the utter silence

Of a temple,

A cicada's voice alone

Penetrates the rocks.

③ 荒海や佐渡によこたふ天の河

The great Milky Way

Spans in a single arch

The billow-crested sea,

Falling on Sado beyond.

## ④ 俳句における切れ字「や」の機能をみると、三句とも日本語では「や」

を冒頭に提示した語に続けて叙述を展開し、いきなり核心部に入り込み、終りを「名詞止め」でしめくくっている。この「や」と「名詞止め」と

が呼応して、深く沈潜した独特の情感をかもしている。これに比べて英語では叙述を構造的につみ重ねている。

## 7 現代日本語の散文にみられる用例

近ごろ新聞や雑誌にわざとらしい「名詞止め」表現がかなり目につく。

### (1) 書き言葉

① 「……それらを解きあかしてゆく過程で浮かび上がってくる少年や少女たちの心の素顔。……」

② 「……そういう対応のしかたを、知らず知らず身につけている私たち。……」

『コミュニケーション不完全症候群』（中島梓著 筑摩書房）の書評  
（朝日新聞1991.10.20）（俵万智）

#### ①の修正案

「……そんな少年や少女たちの心の素顔が、それらを解きあかしてゆく過程で浮かび上がってくる。……」

#### ②の修正案

「……そういう対応のしかたを、知らず知らず私たちは身につけている。……」

### (2) 話し言葉

① 「……台風の発生は毎年八個……」

② 「……は中国ではとんでもないマナー違反、しかし日本では……」

#### ①の修正案

「……台風の発生は毎年八個で……」

「……台風は毎年八個発生し……」

#### ②の修正案

「……は中国ではとんでもないマナー違反ですが、（しかし）日本では……」

### (3) 「名詞止め」表現と休止・句読法との関連（日本語の具体例）

- ① 「夜道をとぼとぼ歩いて坂を上った。すると突然そこへ現れ出たのは、髪ふり乱した白装束の老女。私はびっくり仰天して腰が抜けてしまった。」この下線部を「老女.」、「老女……」、「老女——」などとすると impact が変わる。話し言葉なら pause のとり方と文全体の intonation とか tone を工夫して impact を変えることができる。また次のように句読点を付けない「分かち書き」もできる。

「夜道をとぼとぼ歩いて坂を上った すると突然そこへ現れ出たのは 髪ふり乱した白装束の老女 私はびっくり仰天して腰が抜けてしまった」

- ② 「吹きすさむ風. 辺り一面火の海. 逃げまどう人たち. まるでこの世の生き地獄。この㊦㊧㊨の各下線部の「、」を㊩の下線部の末尾のように「。」にかえると impact は強まるが、逆に文の流れが淀み、調子がごこちなくなる。「分かち書き」をすると、「吹きすさむ風 辺り一面火の海 逃げまどう人たち まるでこの世の生き地獄」となる。

## 8 諺や標語にみられる例

### (1) 日本語

論より証拠

馬子にも衣装

火の用心、マッチ一本火事のもと

一瞬の油断、一生の怪我

### ② 英語、フランス語

Out of sight, out of mind.

Loin des yeux, loin du coeur.

Eye for eye, tooth for tooth.

Oeil pour oeil, dent pour dent.

### ③ 日本語での究極のスタイル

「……展。14－19日。……会館。水曜休み。絵画約百点。一般500円、大高生300円。」

## 9 まとめ — これからの研究課題

### (1) 全般について

- ① Pausology の研究
- ② 和・欧文の Punctuation の通時的研究
- ③ 和・欧文の作家別にみた、このテーマに関わる文体の具体的検証
- ④ 和・欧文の新聞・雑誌等における記事・論考等の標題の付け方の研究
- ⑤ 話し言葉における Pause と、書き言葉における Punctuation および名詞止め等の修辞技法に関連する諸問題
  - イ 音楽の休止との比較
  - ロ Intonation, Rhythm などに関わる Pause Phonology の開発、Impact, Emotion などの言語心理的研究

### (2) 日本語の散文について

- ① 「名詞止め」表現への対応
  - ・情緒豊かで恰好が良い。
  - ・カタログ的で品格がない。
  - ・初心者に対する作文指導で注意を促す。
  - ・プロの書き手もときどき使う。
  - ・上手に使うと情感が高まる。
  - ・下手に使うと過去・現在・未来の時制関係や、主語・目的語などの格関係があいまいになる。
- ② もっと踏み込んだ検討
  - ・使い手の心理、受け手の印象を分析する。
  - ・日本語固有の終助詞と接続詞がもつ豊かな機能を見直す。
  - ・話し言葉における句読法と休止のとり方や、Intonation の付け方を

研究する。

- ・「名詞〔体言〕」止めを安易に使わない文体を開発する。

## 10 主な参考文献、資料等

- (1) 『枕草子』(清少納言) 池田亀鑑校訂 岩波書店
- (2) *The Pillow Book of Sei Shōnagon* (Translated by Ivan Morris, Penguin Classics)
- (3) 『「間」の日本文化』(剣持武彦 朝文社)
- (4) *De L'amour* (Stendahl)
- (5) *Petits Poèmes en Prose – le Spleen de Paris–* (Charles Baudelaire)
- (6) *Contes Choisis* (Guy de Maupassant)
- (7) *Short Stories* (Katherine Mansfield)
- (8) *Gift from The Sea* (Anne Morrow Lindbergh)
- (9) 『英文法概論』(河合茂 京極書店)
- (10) *A Handbook of Present-day English* (Etsko Kruisinga)
- (11) *A Grammar of Late Modern English* (Hendrik Poutsma)
- (12) *The Philosophy of Grammar* (Otto Jespersen)
- (13) *Essentials of English Grammar* (Otto Jespersen)
- (14) *A Comprehensive Grammar of The English Language* (Randolph Quirk, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, Jan Svartvik)
- (15) 『現代フランス文法』(田辺貞之助 白水社)
- (16) 『フランス新文典』(折竹錫 白水社)
- (17) 『新英語学辞典』(大塚高信、中島文雄監修 研究社)
- (18) 『現代英文法辞典』(荒木一雄、安井稔編 三省堂)
- (19) 『国語学辞典』(国語学会編 東京堂)
- (20) 『新国語ハンドブック』(平井昌夫 三省堂)
- (21) 『サラダ記念日』(俵万智 河出書房新社)

- (22) 『赤光』(斎藤茂吉 岩波書店)
- (23) 『おくの細道』(松尾芭蕉) 萩原恭男校注 岩波書店
- (24) *The Narrow Road to The Deep North and Other Sketches*  
(Translated by Nobuyuki Yuasa, Penguin Classics)
- (25) 『俳諧修辞学』(鶴沢四丁 宝文館)
- (26) 『日本の修辞学』(外山滋比古 みすず書房)
- (27) 『修辞的残像』(外山滋比古 垂水書房)
- (28) 『日本語レトリックの体系』(中村明 岩波書店)
- (29) 『高校生のための文章入門』(塚原鉄雄 旺文社)
- (30) 『日本語とテンの打ち方』(岡崎洋三 晩聲社)
- (31) 『英語句読点の知識と使い方』(原田敬一 南雲堂)
- (32) 書評『コミュニケーション不完全症候群』(中島梓 筑摩書房)(俵万智  
朝日新聞 1991.10.20)
- (33) 『日本文法学概論』(山田孝雄 宝文館)